

令和5年度スモールチャレンジ支援事業管理・運営業務 公募型プロポーザルの候補者の選定について

令和5年6月1日
商工労働局イノベーション推進チーム

令和5年度スモールチャレンジ支援事業管理・運営業務の公募型プロポーザルについて、広島県商工労働局産業振興施策公募型プロポーザル選定委員会（以下「選定委員会」という）での審査を踏まえ、次のとおり候補者を選定した。

1 候補者

提出された企画提案書を基にプレゼンテーションを行い、選定委員会において審査の上、得点が上位であった次の者を最優秀提案者として選定した。

株式会社エル・ティー・エス

【主な選定理由】

- ・豊富な受託実績があり、十分な遂行能力が認められる点。
- ・Camps 管理担当者がメンバーに含まれている等、フォロー体制が手厚い点。
- ・スタートアップ等、支援者ともに審査基準が具体的な点。
- ・最終的なマッチングに至るまでのコミュニケーションが豊富で、スタートアップ等と支援者のミスマッチを防ぐことに期待ができる点。
- ・特にセコンドに対する具体的な支援提案があり、コミュニティ形成の補助に期待ができる点。

2 会議の概要

| | |
|----|---------------------------------------|
| 日時 | 令和5年5月24日（水） |
| 方法 | Web 会議 |
| 議題 | 令和5年度スモールチャレンジ支援事業管理・運営業務の受託会社の選定について |

3 応募者（順番は申請順）

| 応募者名 | | 所在地 | 代表者名 |
|------|---------------|-------------------------------------|-------|
| A | 株式会社エル・ティー・エス | 東京都港区元赤坂1丁目3-13 赤坂センタービルディング 14階 | 樺島 弘明 |
| B | みらい株式会社 | 広島県広島市中区銀山町 3-1 ひろしまハイビル 21 16階 | 妹尾 暁 |

4 選定状況

(1) 委員一覧

| | |
|-----|--|
| 委員長 | 川野 真澄 (商工労働局イノベーション環境整備担当部長) |
| 委員 | 金田 典子 (商工労働局イノベーション推進チーム担当課長 (地域産業デジタル化推進担当)) |
| | 門永 吉章 (商工労働局イノベーション推進チーム担当課長 (イノベーション環境整備担当)) |
| | 梅田 宏行 (商工労働局イノベーション推進チーム担当課長 (中小・ベンチャー企業支援担当課長)) |
| | 大内 貞夫 (公益財団法人ひろしま産業振興機構 経営支援統括センター 常務理事) |

(2) 評価基準及び結果等

本プロジェクトは、企業前後のスタートアップ等と支援者をマッチングし実証実験を行うため、受託会社には 20 件程度のプロジェクトを管理し、各プロジェクトの遂行を支援できるかを求めるという観点から、審査項目の中でもとりわけ「1 業務実績」「5 実証実験の支援・進捗管理」に重点をおいて審査を行った。各項目の評価については、次表のとおり。

| 評価項目 | 配点 | 応募者 | | 評価 |
|--|-----|-----|-----|---|
| | | A | B | |
| 遂行能力 | 200 | 146 | 126 | |
| 1 【業務実績】 過去に類似事業の実績があるなど、ノウハウ、業務遂行能力があること。 | 100 | 80 | 60 | ・Aは、類似事業の受託実績が豊富であり、業務不履行もなく安定感があると評価された。 ・Bは、行政からの受託実績は豊富だが、ビジネスモデル構築、スタートアップ支援については未知数であると評価された。 |
| 2 【実施体制】 業務従事者の経験や能力、当県との連絡調整、組織的なバックアップ体制、人員配置など、業務実施体制に妥当性があり、実現可能なものであること。 | 50 | 32 | 32 | ・A・Bともに実施体制は妥当であり、当該業務の仕様で求める水準を満たしていると評価された。 |
| 3 【スケジュール】 | 50 | 34 | 34 | ・A・Bともに実施期間を十分に確保しており、実現可能なものであると |

| | | | | | |
|------|---|-----|-----|-----|--|
| | 業務スケジュールについて、業務内容ごとに計画的で実現可能なものとなっていること。 | | | | 評価された。 |
| 企画提案 | | 250 | 198 | 149 | |
| 4 | 【募集・審査・マッチング】 募集・審査・マッチングの各段階が、スムーズに行えること。 | 25 | 20 | 16 | ・Aは、最終的なマッチングに至るまでのコミュニケーションが豊富で、スタートアップ等と支援者のミスマッチを防ぐことに期待できると評価された。 ・Bは、マッチングまでに至る過程が短く、具体的なプロセスや工夫が見られないと評価された。 |
| 5 | 【実証実験の支援・進捗管理】 実証実験に協力できる企業・個人を集められる見込みがあること。実証実験をより効率的・効果的に実施できる仕組みが構築できること。 | 100 | 80 | 56 | ・Aは、進捗体制は整っているが、実証実験をより効率的・効果的に実施できる仕組みにやや具体性が見られないと評価された。 ・Bは、発注仕様に対する独自のプログラムの提案や進捗管理方法の解像度が低いと評価された。 |
| 6 | 活動基盤整備の補助 ア 事業推進スキル習得の補助】 具体的な提案があり、企画により、スキルアップが見込まれること。 | 25 | 18 | 17 | ・Aは、スタートアップが直面する課題に寄り添った汎用性の高いものであると評価された。 ・Bは、トレンドを追ったものになっており、事業スキルアップの内容が豊富であると評価された。 |
| 7 | 【活動基盤整備の補助 イ コミュニティ形成の補助】 具体的な提案があり、企画により、Camps 拠点とする量的・質的両面で優れたコミュニティが形成できる見込みがあること | 50 | 44 | 30 | ・Aは、Camps との連携も十分に取れること、支援者に着眼したコミュニティ形成が期待できると評価された。 ・Bは、提案内容は具体的であるが、優れたコミュニケーションにつながる提案としては一般的な手法であると評価された。 |
| 8 | 【発表会の実施】 スタートアップ等が、協業企業やベンチャーキャピタルと繋がり、本事業終了後も取組を継続・発展させて実施できる仕組みが構築できること。 | 50 | 36 | 30 | ・Aは、交流会の実施等を行い、本事業終了後も取組を継続・発展させて実施できる仕組みの構築が期待できると評価された。 ・Bは、SNS 発信等の工夫があるが、協業企業やベンチャーキャピタルとの繋がり期待任せに見える部分があると評価された。 |
| 提案金額 | | 50 | 28 | 30 | |
| 9 | 経費の内訳が明確であり、妥当な業務価格であること。 | 50 | 28 | 30 | ・Aは出精値引、交通費、宿泊費の見直しが必要であると評価された。 ・Bは、マネージャー人件費、交通費、メンター等の関与に係る経費が不明瞭と評価された。 |
| 合計点数 | | 500 | 372 | 305 | |

※本結果は、5名の委員の合計点によるものである。